

雨蓋はショパンの調べ

神ノ川大谷沢（大岩沢）

遡行日：10年8月29日

メンバー：早川（リーダー、写真）、
新井（記録）

今回は神ノ川水系でもあまり知られていない大谷沢である。リーダーとは初めての沢山行だが、ここを選んだのは結構リーダーってマイナー志向な人なのかな？

当日、早朝に新井宅を出て神ノ川ヒュッテ付近に駐車。身支度してのんびり出発。近場だと朝が楽チンだ。天気は快晴で、我が心のようだ（と一度でいいから言ってみたい）。

出合から堰堤を4つ越えるといよいよ本番開始。溪相は美しいがこの辺りは水が少ない。



水量のある沢と聞いていたのだがこの先や如何に。リーダーに尋ねると、事前に情報を知りすぎると楽しみがなくなっちゃうとのことであまり調べてないとのこと。自分も調べてないので楽しみにしながらいくつか滝を越えて行くとF3(7m)に出る。水流左なら易しいが、行けるところはどンドン先に行け、とリーダーが言うので、水量もそれ程でもないしホールドも

豊富と見て水流真ん中に入りシャワークライムで突撃。



途中までは調子良かったのだが、上部は立っ
ていて水流をモロに受け水圧が強い。岩質も
剥がれ易く支点も無いので直上は危ない感じ。
そこで、左にトラバースしようとするものの片
足を動かすと水圧でバランスを崩しそうでは
ばらく固まってしまう。



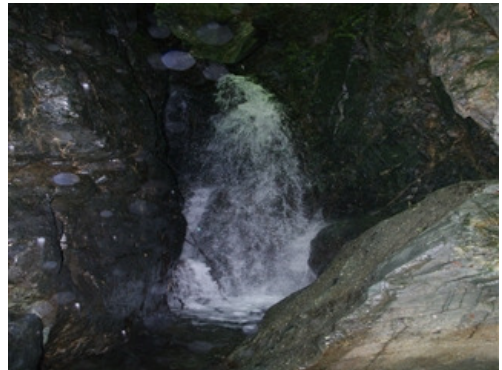
何とか左に逃れたがもし水が冷たかったら手
足が冷えて危なかっただろう。もっと流れを良
く見て水圧を適正に判断するべきであった。
反省その1。反省はサルでも出来るのでこの
体験をこの先に生かさねば。人生に失敗など
無い、問題は全て解決策と共にやって来る、
というどこかの偉い人の言葉を思い出しながら
進むと、暗い廊下の奥に白い滝が見えた。F
4(10m)だ。



ここが一番の難所だ。水流が強くホールドも水飛沫で見出せない。突破は無理と思ったがリーダーはカツパを着込んで果敢にトライ。頭から水を被りながらかなり長い時間トライし続けた。下の釜で膝まで水に浸かりながらビレイしていたが(支点が無いので実際はロープ握ってるだけ)、もしリーダーが突破出来たとしても自分には無理だと思っていた。しばらくしてリーダーもあきらめたのでホッと胸をなでおろしたのだった。(後で記録を調べたがここを突破したものは見付からなかった。)そして少し戻ってゴルジュ入口手前右の右上ルンゼをまず登る。すると先行したリーダーの悲鳴が！急いで駆けつけると、三太夫(マムシ)の子供がいてリーダーがビビっていた。ヘビは苦手とのこと。人は見かけによらないのだ。マムちゃんは岩穴に帰って行った。そこから少し先に以前使っていたものか、ボロボロのシュリングがぶら下っていたが、支点自体も危なっかしく見えそうにない。さらに高巻き懸垂で落ち口上部へ降りた。

少し悪い高巻きから開放されて大休止。遡行しながらいろいろと話してみると、リーダーはかなりのオヤジギャガーでありシーモネーターであると判明。俺と同じじゃん。2人共に文学部卒(その顔で?)。そういえば以前、妹

の友人達と飲む機会があったとき、妹から絶対にオヤジギャグと下ネタは言わないで、と強く念を押され何も喋れなかったという思い出がある。自分の会話がいかにもオヤジギャグと下ネタで出来ているか思い知らされた瞬間であった。その後現在に至るがあまり変わっていないようだ。



岩小屋を通過し F6(6m)へ。リードしてみろ、と言われたのでリードする。水流右を登りながら、そこでハーケン！と言われる所で、今までほとんど打った事が無いハーケンを2ヶ所打ち何とか登った。難しくない滝だがやはりリードは緊張する。



F8はどこでも登れるが右手前の岩角部分を快適に登る。リーダーは左から登った。



この先はもう難所は無いがちょっと詰めが長く暑かった。こんなときはいつもの手段、必殺カラ元気だ〜！ライっ、麦っ、ばたっ、けでっ、つかっ、こうっ、へいっ！などと歩調に合わせてくだらないことを言いながら登る。リーダーはあまり山に行けてないのでギャグを言う余裕もなくなるほどバテていた。最後の方は泥壁になってホールドも無くなりかなり怖い思いをした。もう少し早く樹林帯に入るべきであった。反省その2。



大室山山頂では、どんな低い山でも必ず言うお約束の、やったーっ百名山制覇ーっ！とウソぶいたのは言うまでもない。その後、日陰新道で下山した。

今回は2度怖い思いをしながらも大いに勉強になった。これもどんどん先に行かせてくれて、時間が掛かってモタモタしてもじっくりと待っていてくれたリーダーのお陰であります。ありがとうございました。